資料２

令和３年度　食の安全に関するアンケート調査結果

調査方法

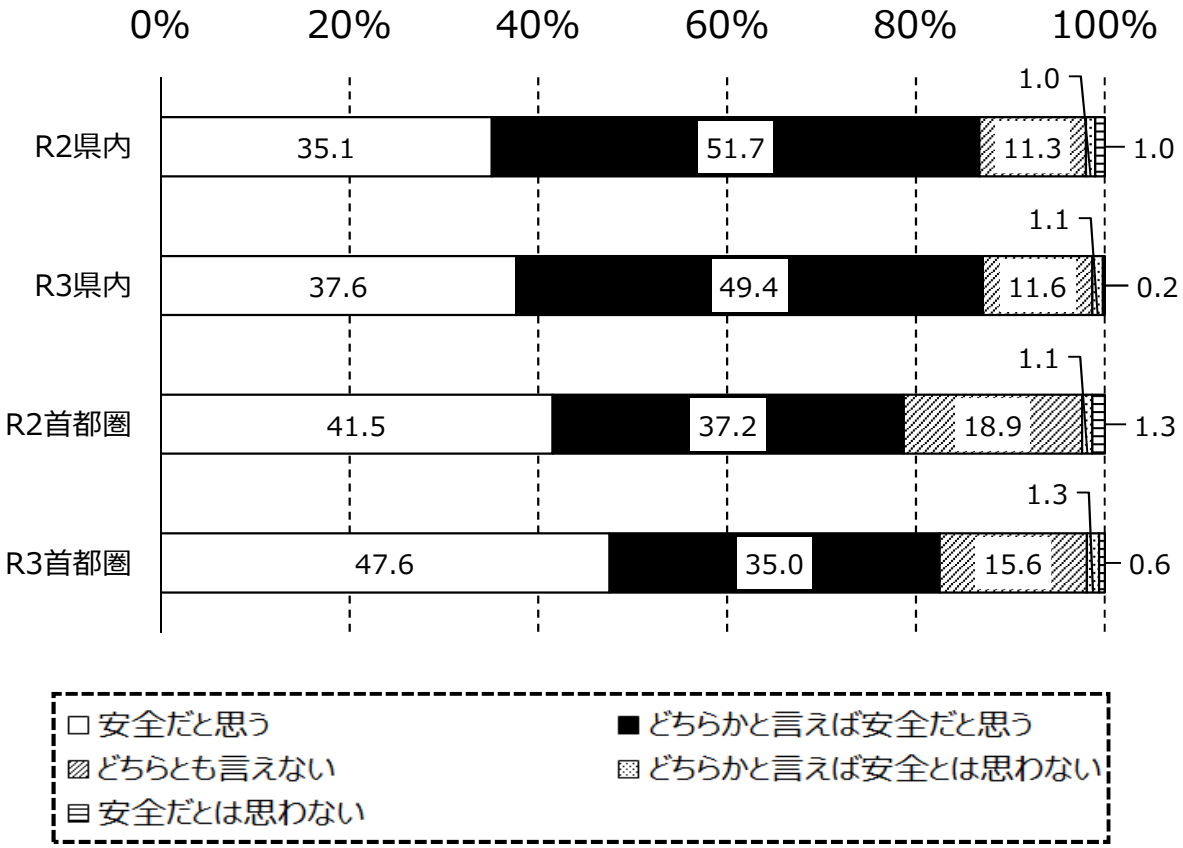
	県内	首都圏
調査時期	令和３年８月 18～20 日	
調査方法	インターネットによる調査 （依頼先：㈱マクロミル）	
調査対象者	新潟県内に在住する 20～60 代の男女	東京都、千葉県、埼玉県、 神奈川県内に在住する 20～60 代の男女
回答者数	524 人／524 人 （回答率 100%）	540 人／540 人 （回答率 100%）

調査対象者の構成

	県　　内		首　都　圏	
	男性	女性	男性	女性
20 代	38 人	36 人	47 人	45 人
30 代	50 人	47 人	57 人	54 人
40 代	57 人	54 人	67 人	64 人
50 代	54 人	53 人	50 人	49 人
60 代	67 人	68 人	52 人	55 人

問１　あなたは新潟県内で生産・加工・製造された食品の安全性について、どのように感じていますか。（ひとつだけ）

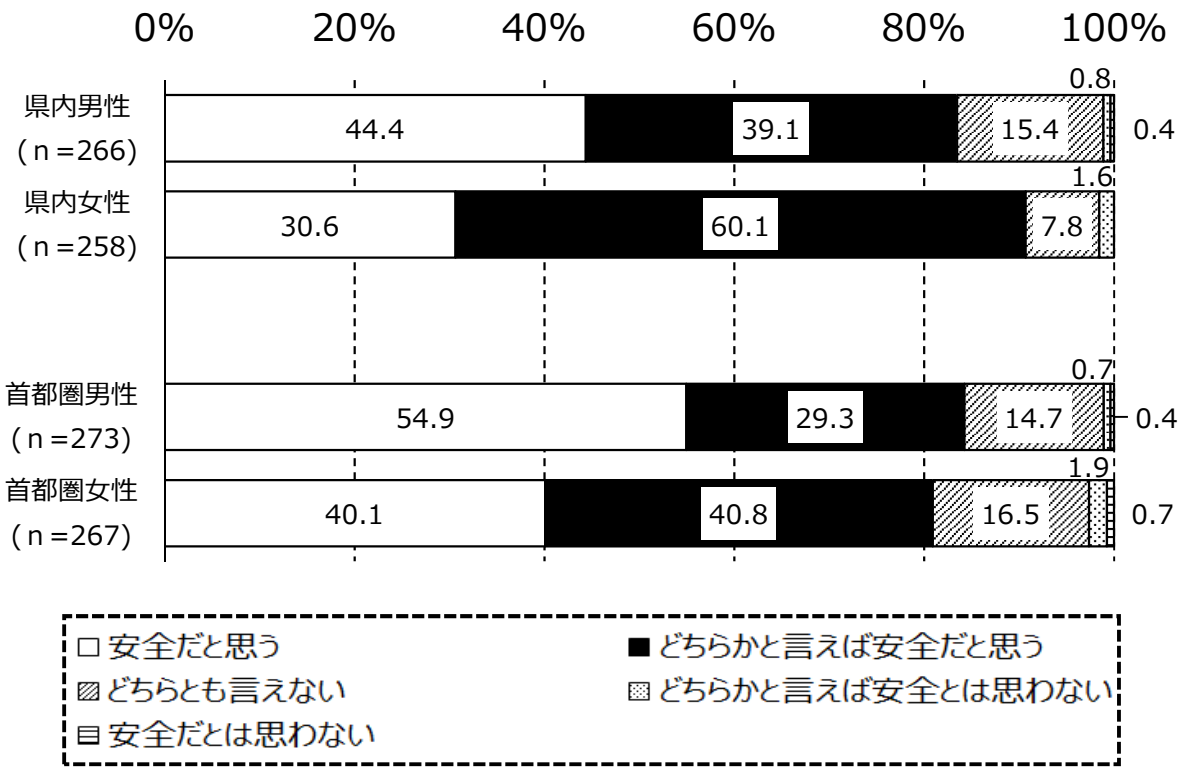
		県内						首都圏					
		Ｒ２年度			Ｒ３年度			Ｒ２年度			Ｒ３年度		
		件数	%		件数	%		件数	%		件数	%	
1	安全だと思う	184	35.1	86.8	197	37.6	87.0	224	41.5	78.7	257	47.6	82.6
2	どちらかと言えば安全だと思う	271	51.7		259	49.4		201	37.2		189	35.0	
3	どちらとも言えない	59		11.3	61		11.6	102		18.9	84		15.6
4	どちらかと言えば安全とは思わない	5	1.0	1.9	6	1.1	1.3	6	1.1	2.4	7	1.3	1.9
5	安全だとは思わない	5	1.0		1	0.2		7	1.3		3	0.6	
	全体	524			524			540			540		



「安全だと思う」又は「どちらかと言えば安全だと思う」と回答した人の割合は、県内で 87.0%（前年度から 0.2 ポイント増）、首都圏で 82.6%（前年度から 3.9 ポイント増）であり、いずれも８割を超える高い数値であった。

なお、「安全だと思う」と回答した人の割合は、県内より首都圏のほうが 10 ポイント高かった。

【男女別(R3 年度)】

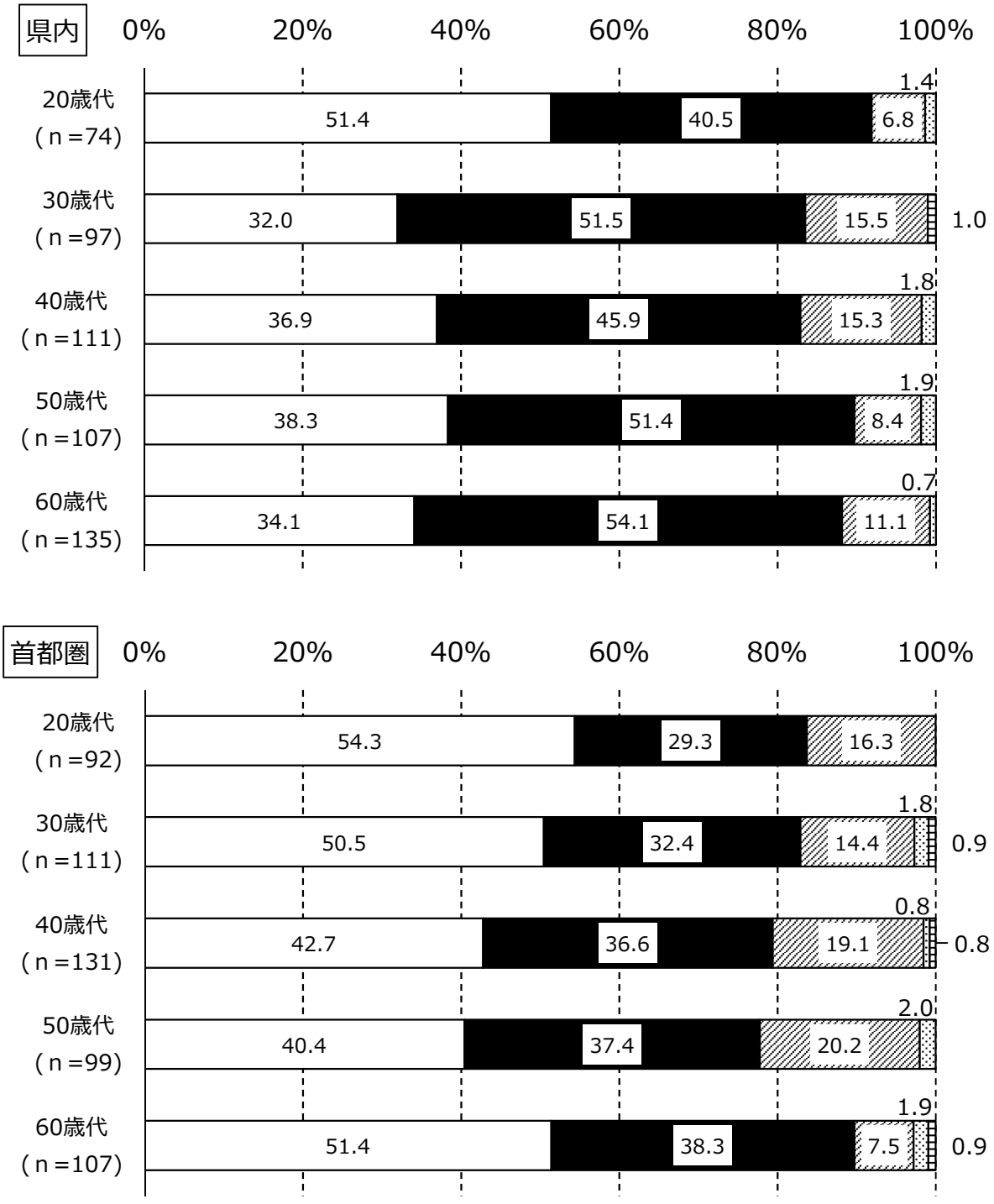


「安全だと思う」の占める割合は、首都圏男性が５割を超えて最も高く、続いて県内男性であった。「どちらかと言えば安全だと思う」の占める割合は、県内女性が６割を超えて最も多く、続いて首都圏女性であった。

県内、首都圏ともに、男性のほうが「安全だと思う」割合は高く、「どちらかと言えば安全だと思う」は女性の割合が高かった。

「安全だと思う」又は「どちらかと言えば安全だと思う」の占める割合で比べると、男性では県内と首都圏で約 84%とほとんど差はなく、女性では県内（90.7%）が首都圏（80.9%）より 10 ポイント程高かった。

【年代別(R3 年度)】



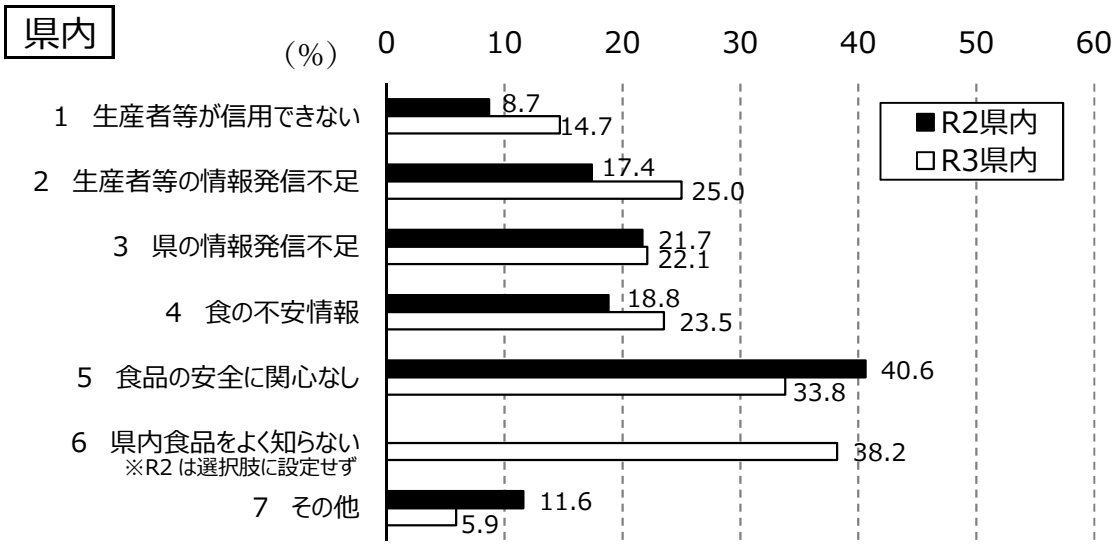
「安全だと思う」の占める割合は、全ての年代で首都圏が高く、「どちらかと言えば安全だと思う」の占める割合は、全ての年代で県内が高かった。

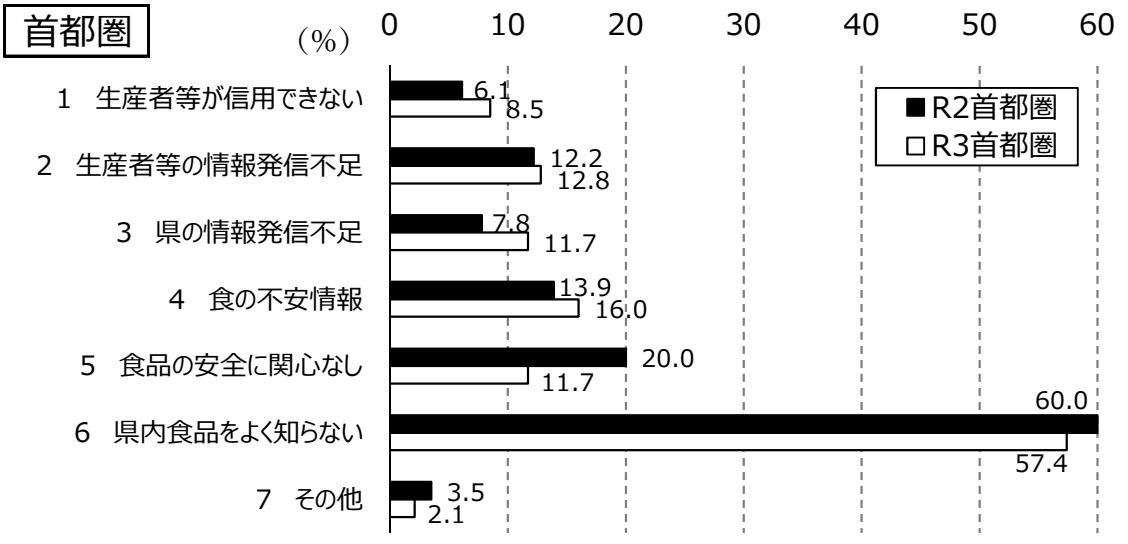
「安全だと思う」又は「どちらかと言えば安全だと思う」の占める割合は、県内の 20 歳代が 91.9%で最も高く、次いで県内の 50 歳代及び首都圏の 60 歳代がともに 89.7%であった。

問２　問１で「３　どちらとも言えない」「４　どちらかと言えば安全とは思わない」「５　安全とは思わない」と回答した理由で、あてはまるものはどれですか。（いくつでも）

		県内						首都圏					
		Ｒ２年度			Ｒ３年度			Ｒ２年度			Ｒ３年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位
1	生産者や製造業者が信用できないから	6	8.7	6	10	14.7	6	7	6.1	6	8	8.5	6
2	生産者や製造業者からの食の安全に関する情報発信が不足しているから	12	17.4	4	17	25.0	3	14	12.2	4	12	12.8	3
3	県からの食の安全に関する情報発信が不足しているから	15	21.7	2	15	22.1	5	9	7.8	5	11	11.7	4
4	食に関する不安な報道を耳にするから	13	18.8	3	16	23.5	4	16	13.9	3	15	16.0	2
5	食品の安全性について、普段あまり関心がないから	28	40.6	1	23	33.8	2	23	20.0	2	11	11.7	4
6	新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから　※				26	38.2	1	69	60.0	1	54	57.4	1
7	その他	8	11.6	5	4	5.9	7	4	3.5	7	2	2.1	7
	全体	69			68			115			94		

※）「６　新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから」は、今年度から県内在住者に対するアンケートの選択肢に加えたため、Ｒ２年度の回答はありません。





県内、首都圏ともに、「新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから」が最も多かった（県内：38.2%、首都圏：57.4%）。

「食品の安全性について、普段あまり関心がないから」の占める割合は、首都圏より県内が高く、前年度と同様の傾向であった。

「その他」回答内容

・どこの自治体だから安全・危険というのは基本的に大きな差はないと思う
・何をもって他の都道府県と比較するのか分からない
・何が安全か分からない
・何事も100%信用するのはいかがなものか　　など

【男女別(R3 年度)】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	生産者等が信用できない	11.4%	20.8%	11.6%	5.9%
2	生産者等の情報発信不足	20.5%	33.3%	16.3%	9.8%
3	県の情報発信不足	20.5%	25.0%	11.6%	11.8%
4	食の不安情報	22.7%	25.0%	14.0%	17.6%
5	食品の安全に関心なし	**34.1%**	33.3%	16.3%	7.8%
6	県内食品をよく知らない	**34.1%**	**45.8%**	**51.2%**	**62.7%**
7	その他	9.1%	0.0%	2.3%	2.0%

「新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから」の割合は、県内、首都圏ともに男性より女性が高かった。

【年代別(R3 年度)】

〈県内〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	生産者等が信用できない	16.7%	6.3%	15.8%	36.4%	6.3%
2	生産者等の情報発信不足	16.7%	12.5%	36.8%	18.2%	**31.3%**
3	県の情報発信不足	33.3%	12.5%	26.3%	18.2%	25.0%
4	食の不安情報	0.0%	25.0%	26.3%	36.4%	18.8%
5	食品の安全に関心なし	16.7%	**37.5%**	36.8%	**45.5%**	25.0%
6	県内食品をよく知らない	**50.0%**	31.3%	**52.6%**	27.3%	**31.3%**
7	その他	0.0%	6.3%	10.5%	0.0%	6.3%

〈首都圏〉

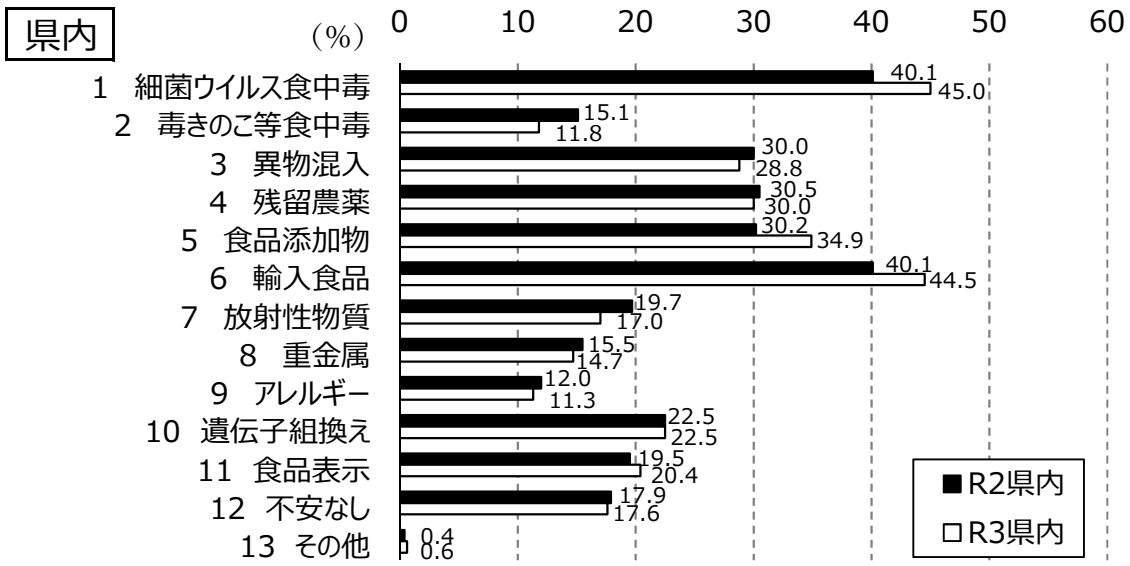
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	生産者等が信用できない	6.7%	10.5%	11.1%	4.5%	9.1%
2	生産者等の情報発信不足	13.3%	15.8%	7.4%	13.6%	18.2%
3	県の情報発信不足	13.3%	10.5%	14.8%	13.6%	0.0%
4	食の不安情報	6.7%	26.3%	22.2%	13.6%	0.0%
5	食品の安全に関心なし	6.7%	10.5%	14.8%	9.1%	18.2%
6	県内食品をよく知らない	**80.0%**	**47.4%**	**55.6%**	**50.0%**	**63.6%**
7	その他	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%

首都圏では「新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから」が、すべての年代で最も多かった。

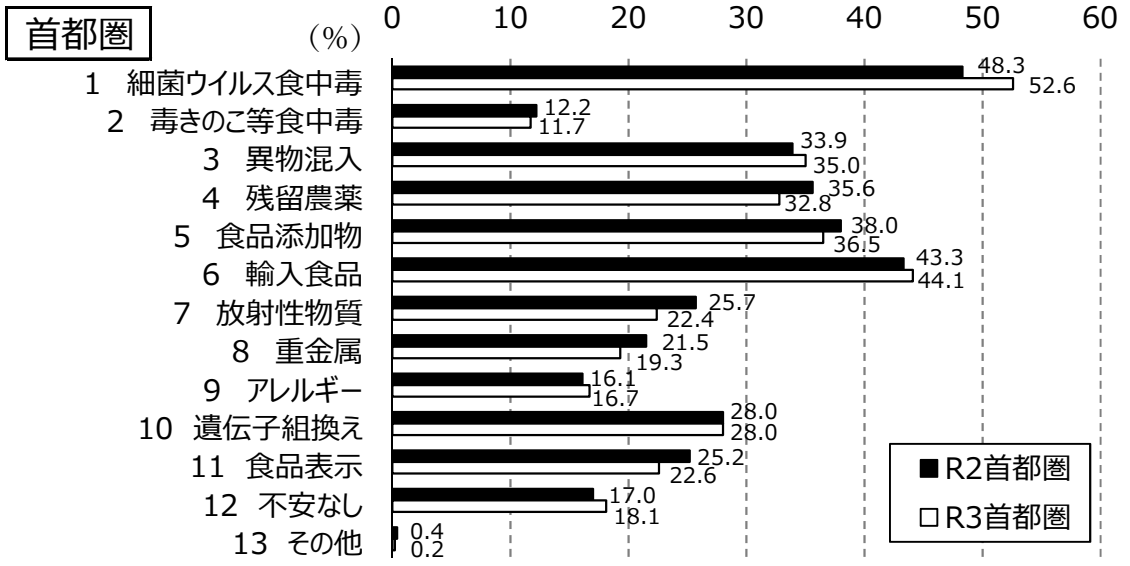
問３　あなたが、普段の食生活の中で、食の安全に関して不安を感じていることは何ですか。（いくつでも）

		県内						首都圏					
		Ｒ２年度			Ｒ３年度			Ｒ２年度			Ｒ３年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位
1	細菌やウイルスによる食中毒	210	40.1	**1**	236	45.0	**1**	261	48.3	**1**	284	52.6	**1**
2	毒きのこや有毒植物による食中毒	79	15.1	11	62	11.8	11	66	12.2	12	63	11.7	12
3	食品への異物混入	157	30.0	**5**	151	28.8	**5**	183	33.9	**5**	189	35.0	**4**
4	農薬の残留	160	30.5	**3**	157	30.0	**4**	192	35.6	**4**	177	32.8	**5**
5	食品添加物の使用	158	30.2	**4**	183	34.9	**3**	205	38.0	**3**	197	36.5	**3**
6	輸入食品の安全性	210	40.1	**1**	233	44.5	**2**	234	43.3	**2**	238	44.1	**2**
7	放射性物質による汚染	103	19.7	7	89	17.0	9	139	25.7	7	121	22.4	8
8	水銀やカドミウムなど重金属による汚染	81	15.5	10	77	14.7	10	116	21.5	9	104	19.3	9
9	食物アレルギー	63	12.0	12	59	11.3	12	87	16.1	11	90	16.7	11
10	遺伝子組換え食品の使用	118	22.5	6	118	22.5	6	151	28.0	6	151	28.0	6
11	食品の表示や宣伝に対する信頼性	102	19.5	8	107	20.4	7	136	25.2	8	122	22.6	7
12	普段の食生活で特に不安は感じていない	94	17.9	9	92	17.6	8	92	17.0	12	98	18.1	10
13	その他	2	0.4	13	3	0.6	13	2	0.4	13	1	0.2	13
	全体	524			524			540			540		

県内



首都圏



県内、首都圏ともに「細菌やウイルスによる食中毒」、「輸入食品の安全性」、「食品添加物の使用」、「農薬の残留」及び「食品への異物混入」が上位を占めており、この傾向は前年と同様であった。

【男女別(R3 年度)】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	細菌ウイルス食中毒	**38.7%**	51.6%	**48.7%**	**56.6%**
2	毒きのこ等食中毒	10.2%	13.6%	10.3%	13.1%
3	異物混入	28.2%	29.5%	36.3%	33.7%
4	残留農薬	24.8%	35.3%	28.9%	36.7%
5	食品添加物	26.3%	43.8%	30.4%	42.7%
6	輸入食品	36.1%	**53.1%**	33.3%	55.1%
7	放射性物質	10.5%	23.6%	16.1%	28.8%
8	重金属	13.2%	16.3%	16.8%	21.7%
9	アレルギー	6.0%	16.7%	16.8%	16.5%
10	遺伝子組換え	18.8%	26.4%	23.4%	32.6%
11	食品表示	17.7%	23.3%	20.5%	24.7%
12	不安なし	24.4%	10.5%	23.8%	12.4%
13	その他	1.1%	0.0%	0.0%	0.4%

県内、首都圏ともに、ほとんどの項目で男性より女性のほうが不安を感じている割合が高かった。特に男女で 10 ポイント以上の差が生じた項目としては、県内では「細菌やウイルスによる食中毒」と「農薬の残留」、県内及び首都圏では「食品添加物の使用」、「輸入食品の安全性」、「放射性物質による汚染」であった。

男女とも不安要素の上位２位は、「細菌やウイルスによる食中毒」と「輸入食品の安全性」であり、特に女性では、県内、首都圏ともに半数以上が不安を感じていた。

年代別(R3 年度)】

〈県内〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	細菌ウイルス食中毒	**43.2%**	**54.6%**	**46.8%**	43.9%	38.5%
2	毒きのこ等食中毒	14.9%	6.2%	12.6%	12.1%	13.3%
3	異物混入	36.5%	24.7%	29.7%	28.0%	27.4%
4	残留農薬	16.2%	19.6%	22.5%	37.4%	45.2%
5	食品添加物	18.9%	30.9%	34.2%	35.5%	46.7%
6	輸入食品	24.3%	30.9%	44.1%	**51.4%**	**60.0%**
7	放射性物質	10.8%	12.4%	18.0%	17.8%	22.2%
8	重金属	13.5%	11.3%	17.1%	7.5%	14.8%
9	アレルギー	17.6%	14.4%	8.1%	9.3%	9.6%
10	遺伝子組換え	13.5%	15.5%	18.0%	27.1%	32.6%
11	食品表示	17.6%	17.5%	22.5%	21.5%	21.5%
12	不安なし	24.3%	18.6%	18.9%	16.8%	12.6%
13	その他	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.7%

〈首都圏〉

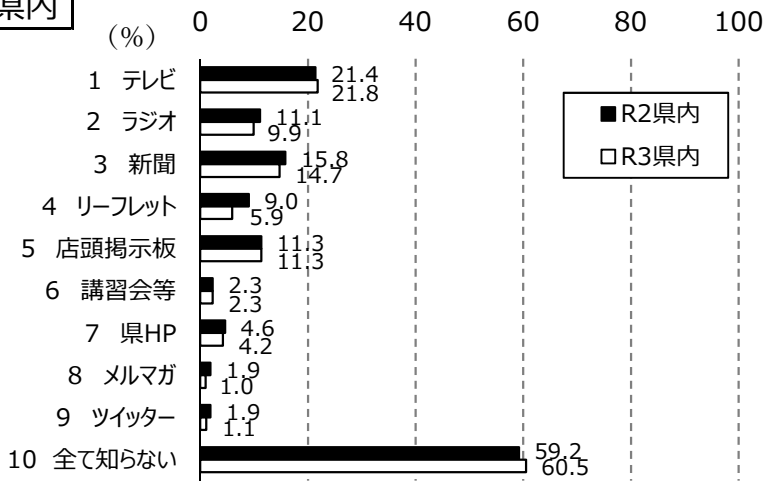
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	細菌ウイルス食中毒	**52.2%**	**47.7%**	**57.3%**	53.5%	51.4%
2	毒きのこ等食中毒	17.4%	9.9%	7.6%	15.2%	10.3%
3	異物混入	38.0%	31.5%	31.3%	38.4%	37.4%
4	残留農薬	20.7%	23.4%	36.6%	39.4%	42.1%
5	食品添加物	19.6%	33.3%	37.4%	43.4%	46.7%
6	輸入食品	27.2%	30.6%	43.5%	**62.6%**	**56.1%**
7	放射性物質	13.0%	18.0%	26.0%	29.3%	24.3%
8	重金属	14.1%	18.0%	18.3%	25.3%	20.6%
9	アレルギー	21.7%	23.4%	16.8%	11.1%	10.3%
10	遺伝子組換え	9.8%	23.4%	32.1%	36.4%	35.5%
11	食品表示	13.0%	14.4%	28.2%	26.3%	29.0%
12	不安なし	21.7%	25.2%	18.3%	15.2%	10.3%
13	その他	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%

県内、首都圏ともに、４，５，６，７，10 の項目については年代が上がるにつれて不安を感じる割合が高くなる傾向が見られた。一方、「食物アレルギー」に不安を感じる割合と「普段の食生活で特に不安は感じていない」と回答した割合は、若い年代のほうが比較的高かった。

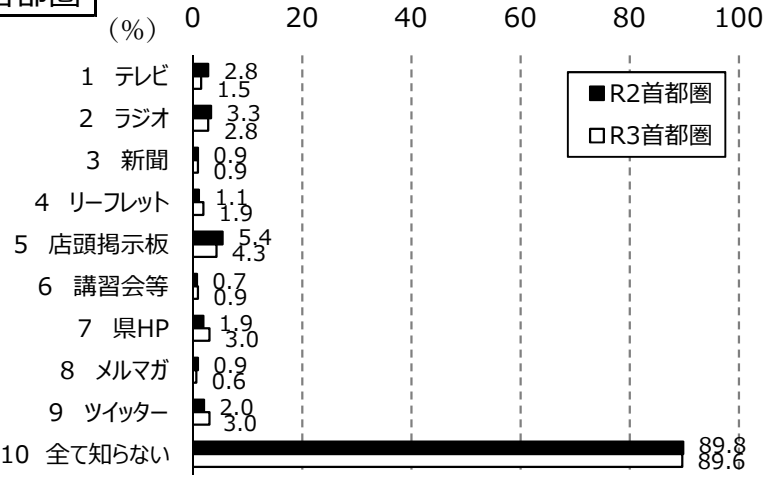
問４　新潟県では、次の方法で食の安全に関する情報を発信していますが、あなたが見聞きしたり、参加したことがあるものはありますか。（いくつでも）

		県内						首都圏					
		Ｒ２年度			Ｒ３年度			Ｒ２年度			Ｒ３年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位
1	県のテレビ広報番組「ほっとホット新潟」、「週刊 県政ナビ」	112	21.4	**2**	114	21.8	**2**	15	2.8	**4**	8	1.5	7
2	ラジオ放送やラジオCM	58	11.1	**5**	52	9.9	**5**	18	3.3	**3**	15	2.8	**5**
3	新潟日報「県からのお知らせ」欄への掲載	83	15.8	**3**	77	14.7	**3**	5	0.9	8	5	0.9	8
4	新潟県が作成したリーフレット類（「防ごうノロウイルス食中毒」、「きのこによる食中毒に注意！」など）	47	9.0	6	31	5.9	6	6	1.1	7	10	1.9	6
5	スーパーマーケットなど食料品店での店頭掲示板「にいがた食の安全インフォメーション」	59	11.3	**4**	59	11.3	**4**	29	5.4	**2**	23	4.3	**2**
6	県内保健所が開催するイベントや講習会（手洗い講座やきのこ講習会など）	12	2.3	8	12	2.3	8	4	0.7	10	5	0.9	8
7	県ホームページ「にいがた食の安全インフォメーション」	24	4.6	7	22	4.2	7	10	1.9	6	16	3.0	**3**
8	メールマガジン「いただきます！にいがた食の安全・安心通信」	10	1.9	9	5	1.0	10	5	0.9	8	3	0.6	10
9	Twitter（ツイッター）「にいがた食の安全」	10	1.9	9	6	1.1	9	11	2.0	**5**	16	3.0	**3**
10	いずれも知らない	310	59.2	**1**	317	60.5	**1**	485	89.8	**1**	484	89.6	**1**
	全体	524			524			540			540		

県内



首都圏



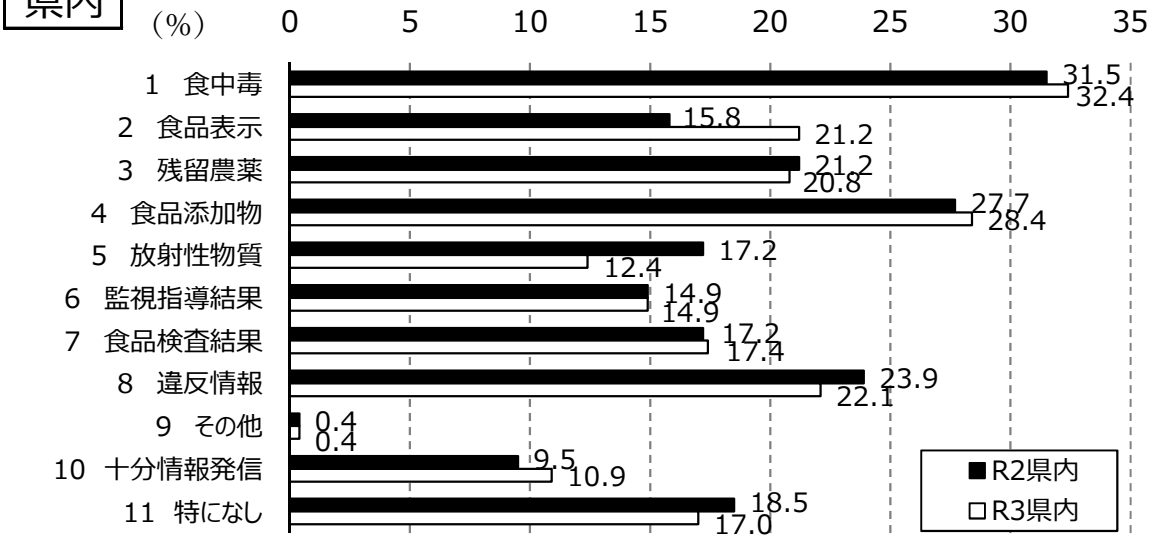
「いずれも知らない」が県内で約６割、首都圏で約９割を占め、前年同様、県が発信する食の安全に関する情報が、県民や首都圏住民にあまり伝わっていないことがうかがえた。

県内で最も認知されていたのは「県のテレビ広報番組」で、それ以外の「新潟日報」、「店頭掲示板」、「ラジオ」についても前年度と同様、上位を占めた。

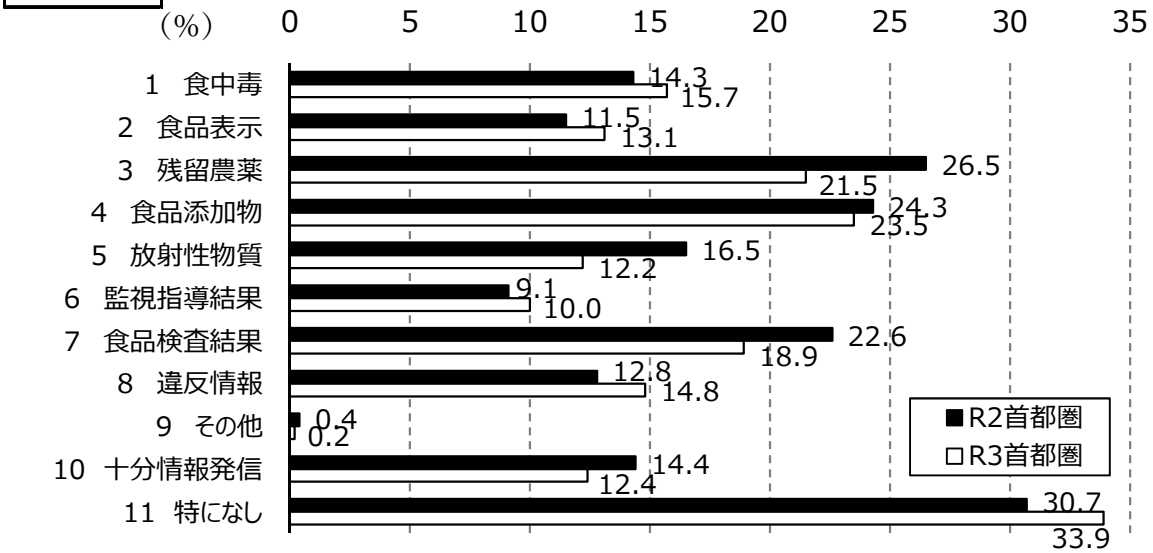
問５　新潟県では、食の安全に関する情報の発信に取り組んでいますが、あなたが新潟県から特に発信してほしい内容はどれですか。（３つまで）

		県内						首都圏					
		Ｒ２年度			Ｒ３年度			Ｒ２年度			Ｒ３年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位
1	食中毒の種類や予防法	165	31.5	**1**	170	32.4	**1**	77	14.3	7	85	15.7	**5**
2	食品表示の見方	83	15.8	8	111	21.2	**4**	62	11.5	9	71	13.1	7
3	残留農薬の安全性	111	21.2	**4**	109	20.8	**5**	143	26.5	**2**	116	21.5	**3**
4	食品添加物の安全性	145	27.7	**2**	149	28.4	**2**	131	24.3	**3**	127	23.5	**2**
5	放射性物質に関する知識	90	17.2	6	65	12.4	9	89	16.5	**5**	66	12.2	9
6	事業者に対する監視指導の実施状況	78	14.9	9	78	14.9	8	49	9.1	10	54	10.0	10
7	流通食品の残留農薬などの安全性に関する検査結果	90	17.2	6	91	17.4	6	122	22.6	**4**	102	18.9	**4**
8	食中毒事件や法の基準に合わない(違反)食品の発生情報	125	23.9	**3**	116	22.1	**3**	69	12.8	8	80	14.8	6
9	その他	2	0.4	11	2	0.4	11	2	0.4	11	1	0.2	11
10	県が現状で行っている情報発信で十分だと思う	50	9.5	10	57	10.9	10	78	14.4	6	67	12.4	8
11	特になし	97	18.5	**5**	89	17.0	7	166	30.7	**1**	183	33.9	**1**
	全体	524			524			540			540		

県内



首都圏



県内では「食中毒の予防法」、「食品添加物の安全性」、「食中毒事件や法の基準に合わない(違反)食品の発生情報」が上位を占めた。

首都圏では「食品添加物の安全性」、「残留農薬の安全性」が上位を占めた一方で、情報発信を求めていない「特になし」の回答が、前年同様最も多かった。

「その他」回答内容

・問題が発生したときに速やかに知らせること　　など

【男女別(R3 年度)】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	食中毒	**28.6%**	**36.4%**	15.4%	16.1%
2	食品表示	18.0%	24.4%	15.4%	10.9%
3	残留農薬	16.5%	25.2%	18.3%	24.7%
4	食品添加物	22.2%	34.9%	19.8%	27.3%
5	放射性物質	12.0%	12.8%	10.6%	13.9%
6	監視指導結果	15.8%	14.0%	11.0%	9.0%
7	食品検査結果	16.5%	18.2%	17.2%	20.6%
8	違反情報	25.2%	19.0%	15.4%	14.2%
9	その他	0.0%	0.8%	0.4%	0.0%
10	十分情報発信	12.0%	9.7%	12.5%	12.4%
11	特になし	22.9%	10.9%	**36.3%**	**31.5%**

県内では多くの項目で、男性より女性のほうが発信を希望する割合が高かった。特に男女で 10 ポイント以上の差が生じた項目は、「食品添加物の安全性」と「特になし」であった。

首都圏では、県内ほど大きな男女差は見られなかった。

【年代別(R3 年度)】

〈県内〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	食中毒	**40.5%**	33.0%	**31.5%**	29.0%	**31.1%**
2	食品表示	37.8%	23.7%	12.6%	22.4%	16.3%
3	残留農薬	10.8%	17.5%	21.6%	22.4%	26.7%
4	食品添加物	24.3%	**34.0%**	25.2%	**29.9%**	28.1%
5	放射性物質	8.1%	13.4%	14.4%	10.3%	14.1%
6	監視指導結果	16.2%	14.4%	12.6%	15.0%	16.3%
7	食品検査結果	8.1%	17.5%	15.3%	19.6%	22.2%
8	違反情報	17.6%	17.5%	23.4%	20.6%	28.1%
9	その他	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%
10	十分情報発信	14.9%	8.2%	9.9%	15.0%	8.1%
11	特になし	16.2%	19.6%	18.0%	14.0%	17.0%

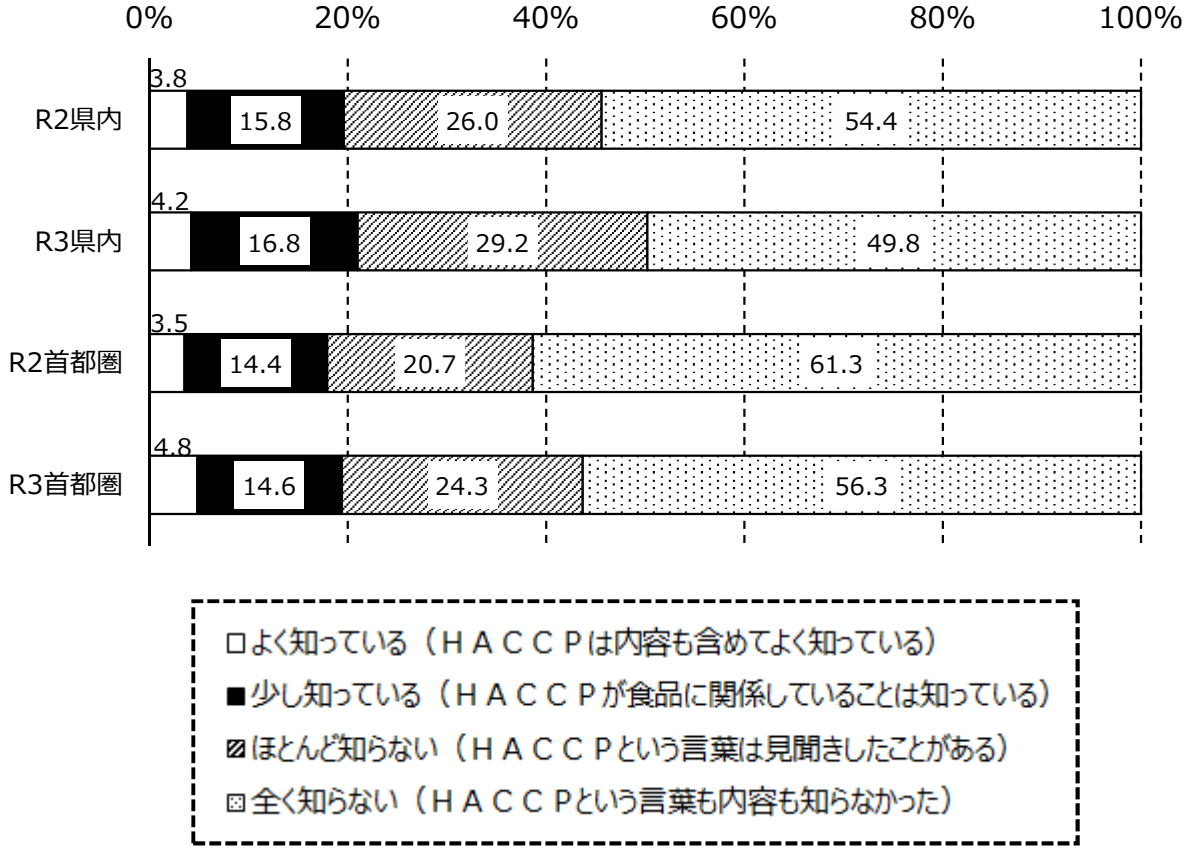
〈首都圏〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	食中毒	25.0%	16.2%	14.5%	12.1%	12.1%
2	食品表示	15.2%	14.4%	13.0%	12.1%	11.2%
3	残留農薬	13.0%	14.4%	26.0%	30.3%	22.4%
4	食品添加物	12.0%	27.9%	22.9%	**29.3%**	24.3%
5	放射性物質	12.0%	15.3%	11.5%	17.2%	5.6%
6	監視指導結果	9.8%	11.7%	10.7%	8.1%	9.3%
7	食品検査結果	15.2%	15.3%	19.1%	17.2%	27.1%
8	違反情報	17.4%	10.8%	16.0%	13.1%	16.8%
9	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
10	十分情報発信	10.9%	12.6%	15.3%	13.1%	9.3%
11	特になし	**40.2%**	**36.0%**	**29.8%**	28.3%	**36.4%**

県内では「残留農薬の安全性」について、年代が上がるにつれて発信を希望する割合が高くなる傾向が見られた。

問６　新潟県では、食品の製造業者、飲食業者、販売業者などの食品関連事業者に対し、ＨＡＣＣＰ（ハサップ）による衛生管理の普及を推進するため、ＨＡＣＣＰに対する消費者の認知度向上に取り組んでいます。あなたは、食品の衛生管理手法であるＨＡＣＣＰを知っていますか。（ひとつだけ）

		県内						首都圏					
		Ｒ２年度			Ｒ３年度			Ｒ２年度			Ｒ３年度		
		件数	%		件数	%		件数	%		件数	%	
1	よく知っている（HACCPは内容も含めてよく知っている）	20	3.8	19.7	22	4.2	21.0	19	3.5	18.0	26	4.8	19.4
2	少し知っている（HACCPが食品に関係していることは知っている）	83	15.8		88	16.8		78	14.4		79	14.6	
3	ほとんど知らない（HACCPという言葉は見聞きしたことがある）	136	26.0	80.3	153	29.2	79.0	112	20.7	82.0	131	24.3	80.6
4	全く知らない（HACCPという言葉も内容も知らなかった）	285	54.4		261	49.8		331	61.3		304	56.3	
	全体	524			524			540			540		



ＨＡＣＣＰについて「よく知っている」又は「少し知っている」の占める割合は、県内、首都圏ともに２割程度（県内：21.0%、首都圏：19.4%）にとどまった。

【男女別(R3 年度)】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	よく知っている （ＨＡＣＣＰは内容も含めてよく知っている）	5.3%	3.1%	6.2%	3.4%
2	少し知っている （ＨＡＣＣＰが食品に関係していることは知っている）	18.4%	15.1%	19.8%	9.4%
3	ほとんど知らない （ＨＡＣＣＰという言葉は見聞きしたことがある）	30.1%	28.3%	26.7%	21.7%
4	全く知らない （ＨＡＣＣＰという言葉も内容も知らなかった）	**46.2%**	**53.5%**	**47.3%**	**65.5%**

ＨＡＣＣＰについて「よく知っている」又は「少し知っている」の占める割合は、県内、首都圏ともに女性より男性のほうが高かった。

【年代別(R3 年度)】

〈県内〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	よく知っている （ＨＡＣＣＰは内容も含めてよく知っている）	6.8%	5.2%	5.4%	1.9%	3.0%
2	少し知っている （ＨＡＣＣＰが食品に関係していることは知っている）	21.6%	11.3%	16.2%	22.4%	14.1%
3	ほとんど知らない （ＨＡＣＣＰという言葉は見聞きしたことがある）	27.0%	30.9%	25.2%	29.0%	32.6%
4	全く知らない （ＨＡＣＣＰという言葉も内容も知らなかった）	**44.6%**	**52.6%**	**53.2%**	**46.7%**	**50.4%**

〈首都圏〉

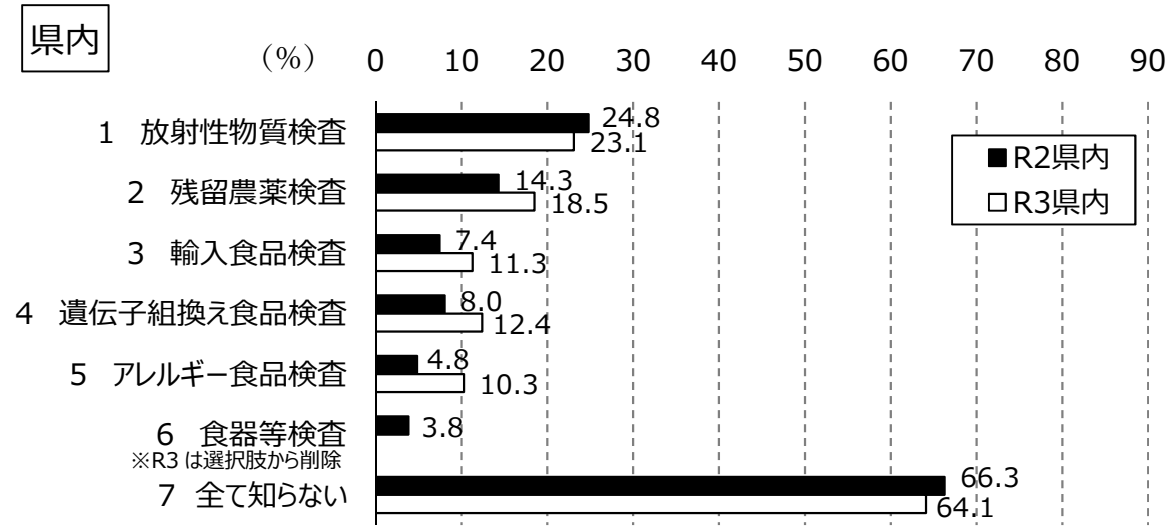
		20歳代 (ｎ=92)	30歳代 (ｎ=111)	40歳代 (ｎ=131)	50歳代 (ｎ=99)	60歳代 (ｎ=107)
1	よく知っている （ＨＡＣＣＰは内容も含めてよく知っている）	9.8%	6.3%	4.6%	3.0%	0.9%
2	少し知っている （ＨＡＣＣＰが食品に関係していることは知っている）	14.1%	15.3%	14.5%	13.1%	15.9%
3	ほとんど知らない （ＨＡＣＣＰという言葉は見聞きしたことがある）	21.7%	24.3%	23.7%	22.2%	29.0%
4	全く知らない （ＨＡＣＣＰという言葉も内容も知らなかった）	**54.3%**	**54.1%**	**57.3%**	**61.6%**	**54.2%**

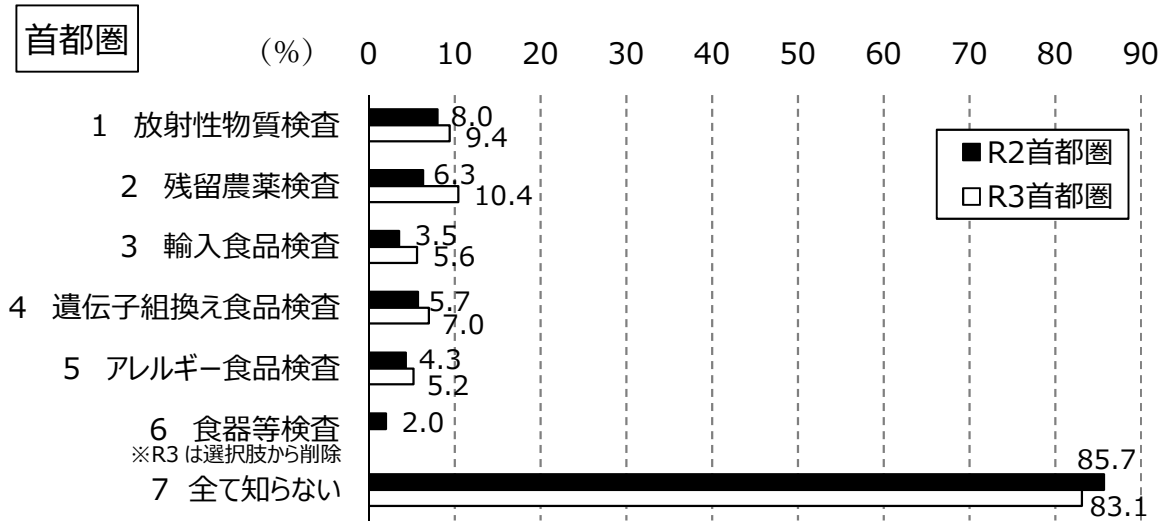
ＨＡＣＣＰについて「よく知っている」と回答した割合は、いずれの年代でも１割未満と低かったが、その中でも年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向が見られた。

問７　新潟県では、様々な食品の検査を実施し、結果を公表しています。あなたは、新潟県が以下の食品検査を行っていることを知っていましたか。（いくつでも）

		県内						首都圏					
		Ｒ２年度			Ｒ３年度			Ｒ２年度			Ｒ３年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位
1	食品の放射性物質検査	130	24.8	**2**	121	23.1	**2**	43	8.0	**2**	51	9.4	**3**
2	農産物の残留農薬検査	75	14.3	**3**	97	18.5	**3**	34	6.3	**3**	56	10.4	**2**
3	輸入食品の食品添加物や細菌の検査	39	7.4	**5**	59	11.3	**5**	19	3.5	6	30	5.6	**5**
4	遺伝子組換え食品の検査	42	8.0	**4**	65	12.4	**4**	31	5.7	**4**	38	7.0	**4**
5	アレルゲンを含む食品の検査	25	4.8	6	54	10.3	6	23	4.3	**5**	28	5.2	6
6	食器や調理器具、食品の包装資材等の検査　※	20	3.8	7				11	2.0	7			
7	どれも知らない	348	66.3	**1**	336	64.1	**1**	463	85.7	**1**	449	83.1	**1**
	全体	524			524			540			540		

※)「６　食器や調理器具、食品の包装資材等の検査」は、今年度から検査を実施しないこととなったため、選択肢から削除しました。





「どれも知らない」が県内で約６割、首都圏で約８割を占め、昨年度とほぼ同様の傾向であった。

【男女別(R3 年度)】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	放射性物質検査	20.7%	25.6%	9.5%	9.4%
2	残留農薬検査	16.2%	20.9%	13.6%	7.1%
3	輸入食品検査	12.0%	10.5%	7.7%	3.4%
4	遺伝子組換え食品検査	10.5%	14.3%	9.2%	4.9%
5	アレルギー食品検査	7.9%	12.8%	5.9%	4.5%
7	全て知らない	**65.4%**	**62.8%**	**79.1%**	**87.3%**

【年代別(R3 年度)】

〈県内〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	放射性物質検査	9.5%	15.5%	23.4%	28.0%	31.9%
2	残留農薬検査	10.8%	16.5%	18.9%	21.5%	21.5%
3	輸入食品検査	8.1%	7.2%	10.8%	8.4%	18.5%
4	遺伝子組換え食品検査	8.1%	9.3%	12.6%	14.0%	15.6%
5	アレルギー食品検査	10.8%	8.2%	10.8%	10.3%	11.1%
7	全て知らない	**75.7%**	**71.1%**	**61.3%**	**61.7%**	**57.0%**

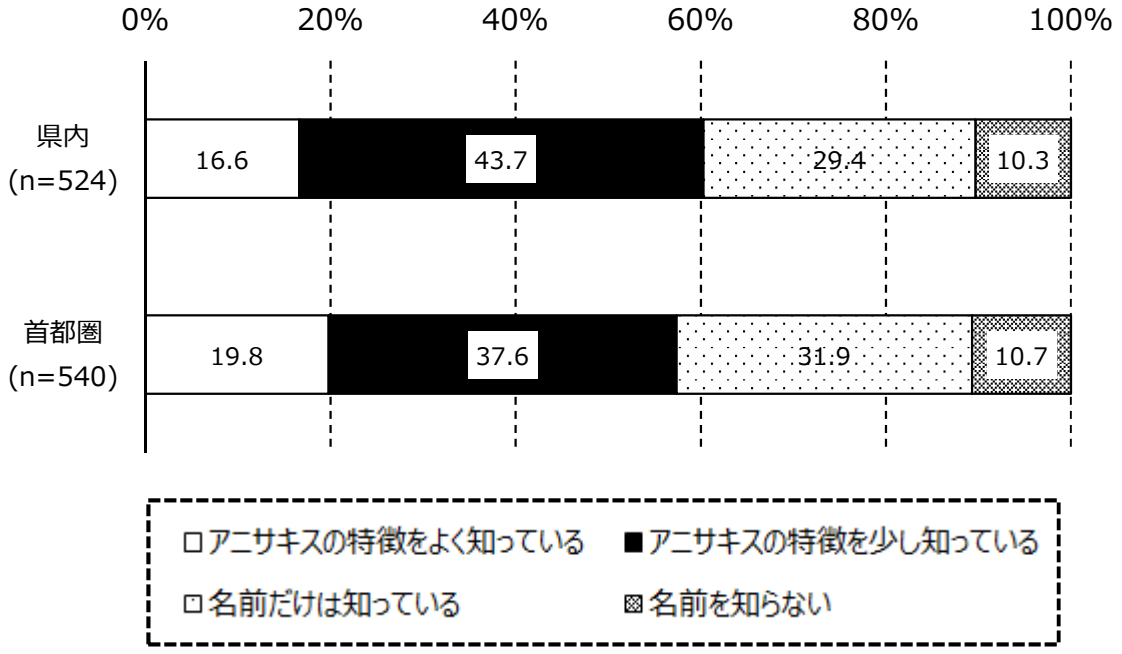
〈首都圏〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	放射性物質検査	8.7%	10.8%	9.2%	9.1%	9.3%
2	残留農薬検査	12.0%	11.7%	9.2%	10.1%	9.3%
3	輸入食品検査	5.4%	6.3%	3.1%	8.1%	5.6%
4	遺伝子組換え食品検査	5.4%	9.0%	5.3%	9.1%	6.5%
5	アレルギー食品検査	4.3%	7.2%	5.3%	6.1%	2.8%
7	全て知らない	**80.4%**	**82.0%**	**82.4%**	**84.8%**	**86.0%**

県内では、１，２，４の項目について、年代が上がるにつれて知っている割合が高くなる傾向が見られた。逆に「どれも知らない」と回答した割合は、若い年代ほど高くなる傾向が見られた。

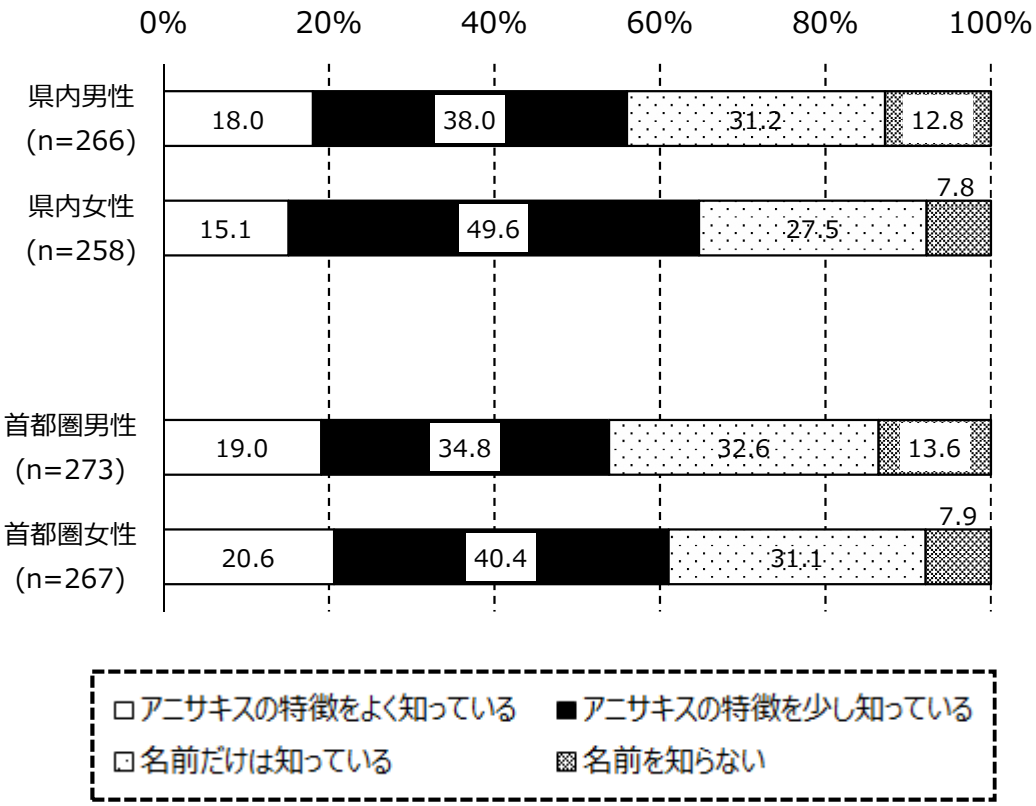
問８　令和元年の全国の食中毒統計において、魚につく寄生虫の一種である「アニサキス」による食中毒の発生件数が原因物質別で第１位となりました。
「アニサキス」をご存じですか？（ひとつだけ）

		県内			首都圏		
		Ｒ３年度			Ｒ３年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位
1	アニサキスの特徴をよく知っている	87	16.6	3	107	19.8	3
2	アニサキスの特徴を少し知っている	229	43.7	1	203	37.6	1
3	名前だけは知っている	154	29.4	2	172	31.9	2
4	名前を知らない	54	10.3	4	58	10.7	4
	全体	524			540		



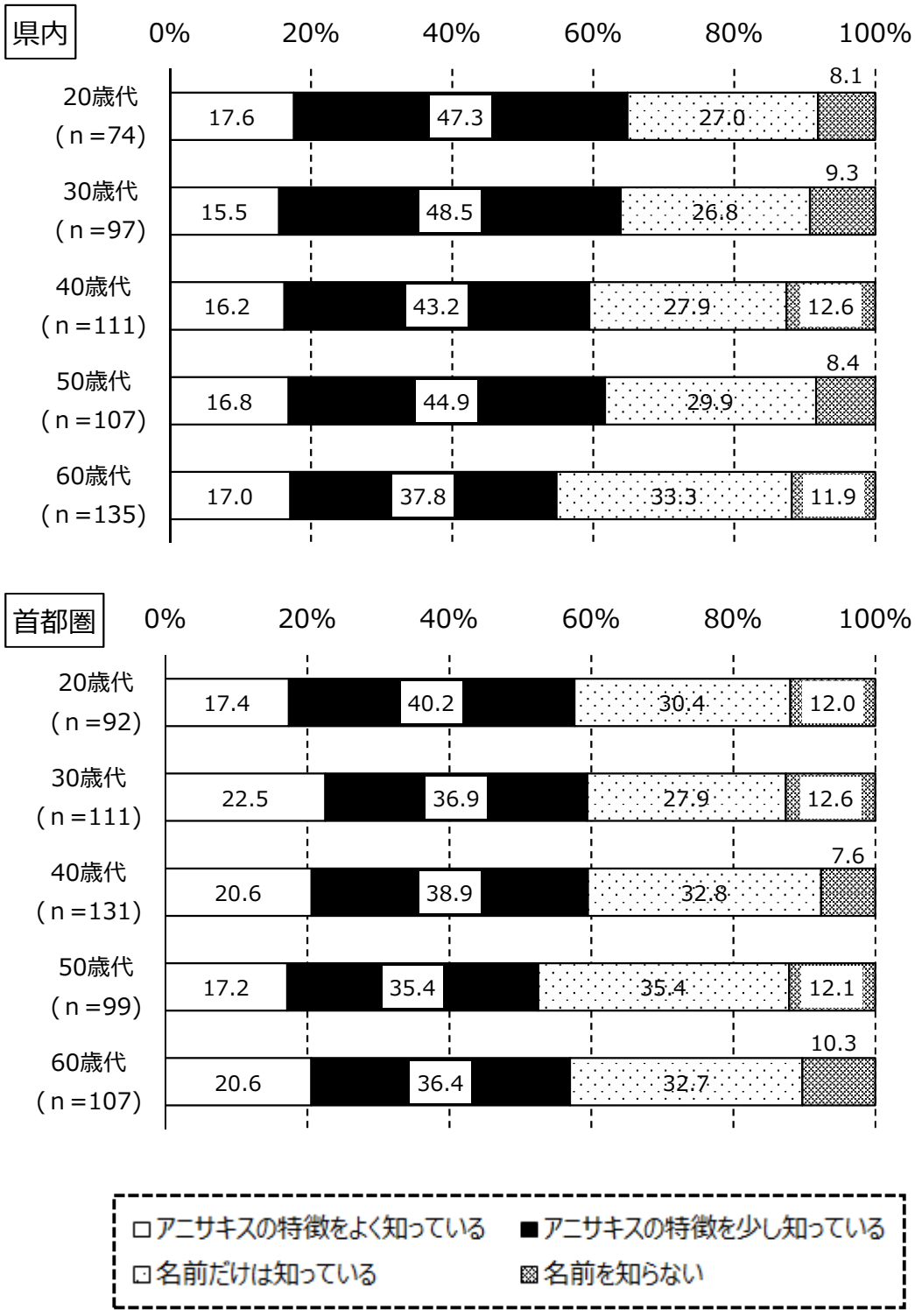
県内、首都圏ともに、「アニサキスの特徴を少し知っている」と回答した人の割合が最も高く、「アニサキスの特徴をよく知っている」と回答した人と合わせると、約６割を占めた。

【男女別】



アニサキスの特徴を「よく知っている」及び「少し知っている」と回答した人の割合は、県内、首都圏ともに男性より女性のほうがやや高く、６割を超えていた。

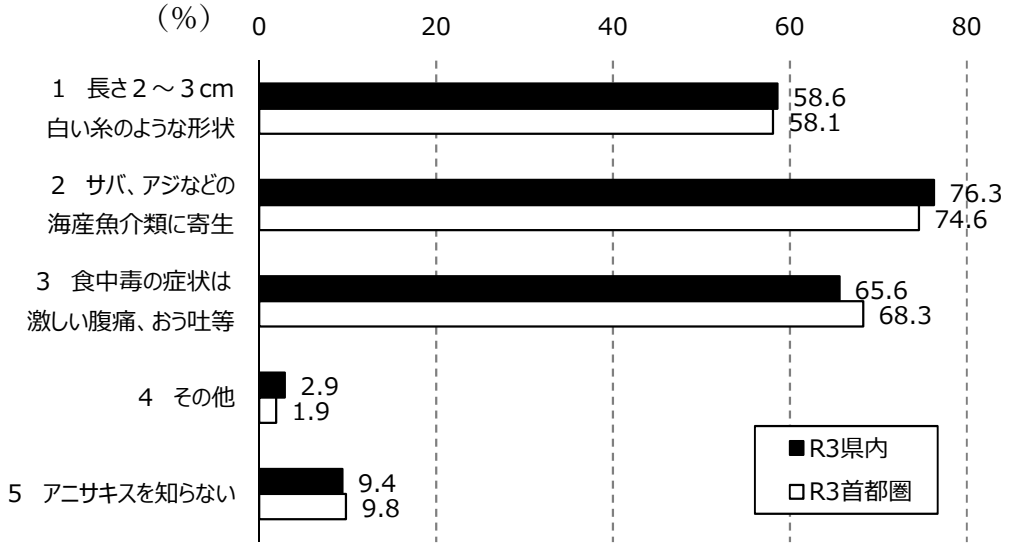
【年代別】



年代による大きな差はなく、「アニサキスの特徴をよく知っている」又は「アニサキスの特徴を少し知っている」の占める割合は、どの年代も５割を超えた。

問９ 「アニサキス」について、どのようなことを知っていますか。（いくつでも）

		県内			首都圏		
		Ｒ３年度			Ｒ３年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位
1	長さ2～3cmで、白い糸のような形状をしている	307	58.6	3	314	58.1	3
2	サバ、アジなどの海産魚介類に寄生していることがある	400	76.3	1	403	74.6	1
3	食中毒の症状は、激しい腹痛、おう吐などである	344	65.6	2	369	68.3	2
4	その他知っていること	15	2.9	5	10	1.9	5
5	アニサキスを知らない	49	9.4	4	53	9.8	4
	全体	524			540		



県内、首都圏ともに、アニサキスの特徴である「長さ２～３㎝、白い糸のような形状」、「サバ、アジなどの海産魚介類に寄生」、「食中毒の症状は激しい腹痛、おう吐等」は、いずれも５割以上が知っていると回答。

「その他」回答内容

・冷凍、加熱処理によって死滅する
・刺身についている　・イカに寄生している
・－20℃以下で 24 時間以上冷凍すると、食中毒のリスクを下げることができる
・内視鏡で除去する　など

【男女別】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	長さ２～３cm 白い糸のような形状	53.4%	64.0%	53.8%	62.5%
2	サバ、アジなどの 海産魚介類に寄生	**73.3%**	**79.5%**	**73.6%**	**75.7%**
3	食中毒の症状は 激しい腹痛、おう吐等	58.6%	72.9%	61.5%	75.3%
4	その他	2.3%	3.5%	1.8%	1.9%
5	アニサキスを知らない	12.4%	6.2%	12.8%	6.7%

１，２，３のいずれの特徴についても、県内、首都圏とも男性より女性のほうが知っている割合が高かった（特に特徴３で差が最も大きかった)。

【年代別】

〈県内〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	長さ２～３cm 白い糸のような形状	60.8%	60.8%	64.0%	57.0%	52.6%
2	サバ、アジなどの 海産魚介類に寄生	**70.3%**	**76.3%**	**74.8%**	**78.5%**	**79.3%**
3	食中毒の症状は 激しい腹痛、おう吐等	66.2%	70.1%	65.8%	65.4%	62.2%
4	その他	1.4%	3.1%	4.5%	2.8%	2.2%
5	アニサキスを知らない	8.1%	6.2%	12.6%	8.4%	10.4%

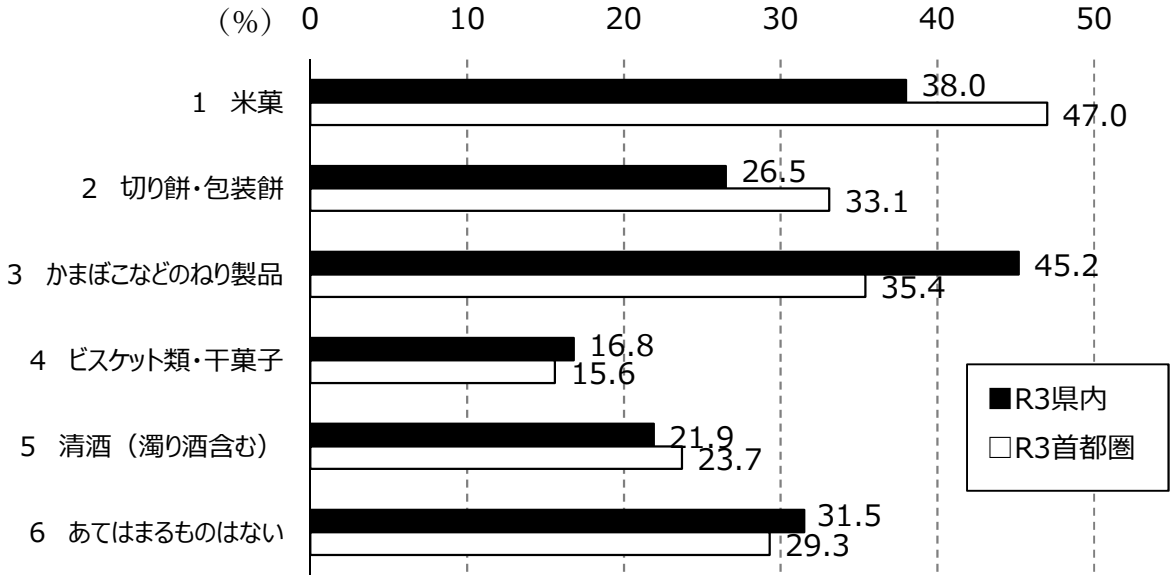
〈首都圏〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	長さ２～３cm 白い糸のような形状	**65.2%**	60.4%	59.5%	53.5%	52.3%
2	サバ、アジなどの 海産魚介類に寄生	**65.2%**	68.5%	**82.4%**	73.7%	**80.4%**
3	食中毒の症状は 激しい腹痛、おう吐等	62.0%	**73.0%**	67.9%	**75.8%**	62.6%
4	その他	3.3%	1.8%	0.0%	1.0%	3.7%
5	アニサキスを知らない	9.8%	11.7%	6.9%	11.1%	10.3%

１，２，３いずれの特徴についても、県内、首都圏ともすべての年代で５割を超える人が「知っている」と回答した。

問 10　加工食品の平成 30 年出荷額の都道府県ランキングで、新潟県がベスト３に入る品目のうち、あなたが安全や品質に関する情報を知りたいと思う品目はどれですか。（いくつでも）

		県内			首都圏		
		Ｒ３年度			Ｒ３年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位
1	米菓（第1位）	199	38.0	**2**	254	47.0	**1**
2	切り餅・包装餅（第1位）	139	26.5	**4**	179	33.1	**3**
3	かまぼこなどのねり製品（第1位）	237	45.2	**1**	191	35.4	**2**
4	ビスケット類・干菓子（第3位）	88	16.8	6	84	15.6	6
5	清酒（濁り酒含む）（第3位）	115	21.9	**5**	128	23.7	**5**
6	あてはまるものはない	165	31.5	**3**	158	29.3	**4**
	全体	524			540		



県内では「かまぼこなどのねり製品」を挙げた人が最も多かったが、首都圏では「米菓」を挙げた人が最も多かった。

【男女別】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	米菓	33.8%	42.2%	**44.0%**	**50.2%**
2	切り餅・包装餅	21.8%	31.4%	32.2%	34.1%
3	かまぼこなどのねり製品	35.7%	**55.0%**	29.3%	41.6%
4	ビスケット類・干菓子	12.8%	20.9%	13.9%	17.2%
5	清酒（濁り酒含む）	24.4%	19.4%	28.9%	18.4%
6	あてはまるものはない	**38.3%**	24.4%	32.6%	25.8%

県内、首都圏とも、「清酒（濁り酒含む）」については女性より男性のほうが「情報を知りたい」と回答した人の割合が高かったが、それ以外の品目については女性のほうが割合が高かった。

【年代別】

〈県内〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	米菓	**43.2%**	**43.3%**	29.7%	44.9%	32.6%
2	切り餅・包装餅	23.0%	33.0%	22.5%	30.8%	23.7%
3	かまぼこなどのねり製品	31.1%	40.2%	**40.5%**	**45.8%**	**60.0%**
4	ビスケット類・干菓子	24.3%	22.7%	16.2%	15.9%	9.6%
5	清酒（濁り酒含む）	20.3%	26.8%	20.7%	20.6%	21.5%
6	あてはまるものはない	32.4%	33.0%	38.7%	32.7%	23.0%

〈首都圏〉

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	米菓	**40.2%**	**46.8%**	**51.1%**	**43.4%**	**51.4%**
2	切り餅・包装餅	23.9%	34.2%	38.2%	32.3%	34.6%
3	かまぼこなどのねり製品	27.2%	36.9%	38.2%	33.3%	39.3%
4	ビスケット類・干菓子	19.6%	18.0%	17.6%	9.1%	13.1%
5	清酒（濁り酒含む）	22.8%	21.6%	26.7%	24.2%	22.4%
6	あてはまるものはない	34.8%	32.4%	25.2%	28.3%	27.1%

首都圏では年代による大きな差は見られず、どの年代も「米菓」の割合が高い。

県内では、20 歳代と 30 歳代は「米菓」、40 歳代から 60 歳代は、「かまぼこなどのねり製品」の割合が高かった。

資料２－２

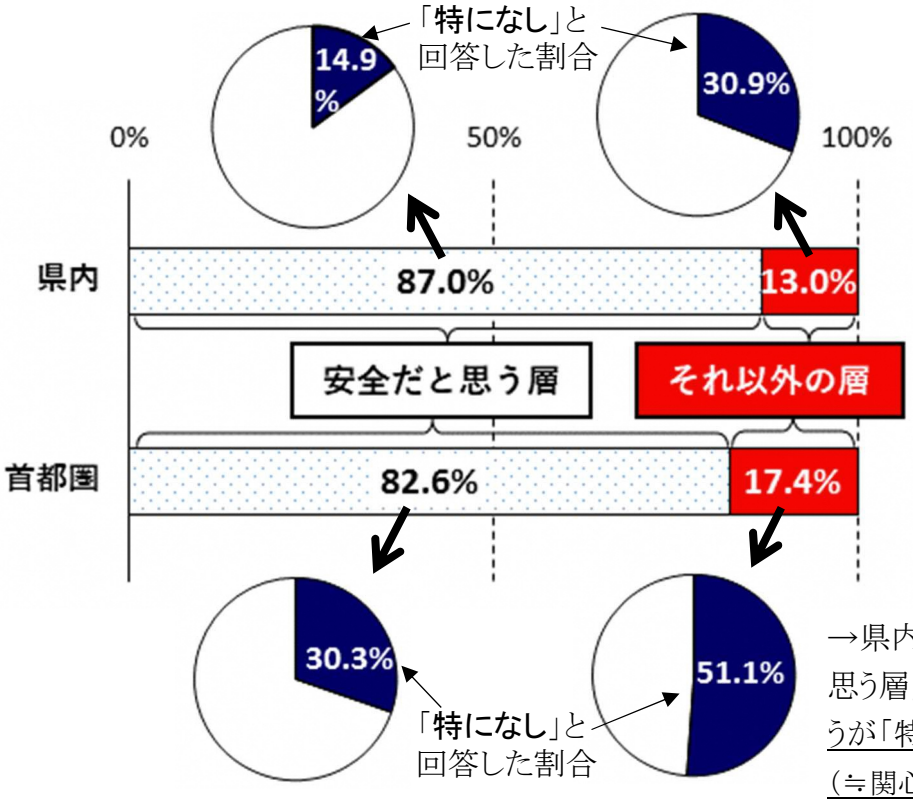
アンケート結果の分析と今後の情報発信の方向性

１　アンケート結果から推測される傾向

(1) 県内・首都圏とも「安全だと思う層」のほうが、食の安全への関心が比較的高く、食の安全に関する知識が比較的多い。

【根拠データ】（関心度の差）

・問５「新潟県から発信してほしい情報があるか」



安全だと思う層
問1で
1 安全だと思う
2 どちらかと言えば安全だと思う
と回答した層

それ以外の層
問1で
3 どちらとも言えない
4 どちらかと言えば安全とは思わない
5 安全だとは思わない
と回答した層

→県内・首都圏とも、「安全だと思う層」より「それ以外の層」のほうが「特になし」と回答した割合（≒関心が低い割合）が高い。

・問 10「新潟県の特産品のうち、安全や品質の情報を知りたい品目はどれか」

		県内		首都圏	
		安全だと思う層	それ以外の層	安全だと思う層	それ以外の層
1	米菓	**40.6%**	20.6%	**49.6%**	35.1%
2	切り餅・包装餅	**28.1%**	16.2%	**36.1%**	19.1%
5	清酒（濁り酒含む）	**23.7%**	10.3%	**25.6%**	14.9%
6	該当なし	29.2%	**47.1%**	26.2%	**43.6%**

→県内・首都圏とも「安全だと思う層」のほうが安全や品質の情報を知りたいと回答した割合（≒関心が高い割合）が高い。

逆に、「該当なし」と回答した割合（≒関心が低い割合）は、県内・首都圏とも「それ以外の層」のほうが高い。

【根拠データ】（知識の差）

・問６「HACCP」（ハサップ）の認知度

	県内		首都圏	
	安全だと思う層	それ以外の層	安全だと思う層	それ以外の層
知っている 少し知っている	**22.6%**	10.3%	**22.4%**	5.3%
ほとんど知らない 全く知らない	77.4%	**89.7%**	77.6%	**94.7%**

→県内・首都圏とも「安全だと思う層」のほうが認知度が高い。

・問８ 魚介類につく寄生虫「アニサキス」の認知度

	県内		首都圏	
	安全だと思う層	それ以外の層	安全だと思う層	それ以外の層
よく知っている 少し知っている 名前だけ知っている	**91.2%**	79.4%	**91.7%**	77.7%
名前を知らない	8.8%	**20.6%**	8.3%	**22.3%**

→県内・首都圏とも「安全だと思う層」のほうが認知度が高い。

(2) 県民に比べ、首都圏住民には新潟県産食品の情報は届きにくく、あまり知られていない。

【根拠データ】

・問４ 新潟県からの情報発信の認知度

		県内	首都圏
1	県のテレビ広報番組「ほっとホット新潟」「週刊県政ナビ」	**21.8%**	1.5%
3	新潟日報「県からのお知らせ」欄	**14.7%**	0.9%
10	いずれも知らない	60.5%	**89.6%**

→首都圏では、新潟県からの情報発信はほとんど知られていない。

・問７ 新潟県による食品検査の認知度

		県内	首都圏
1	食品の放射性物質検査	**23.1%**	9.4%
7	どれも知らない	64.1%	**83.1%**

→県内より首都圏のほうが認知度が低い。

(3) 首都圏住民の中には、食の安全への関心は高いが、新潟県産食品のことをよく知らないために問１で「どちらとも言えない・安全とは思わない」を回答した人が比較的多い。

【根拠データ】

・問２ 問１で「３ どちらとも言えない」「４ どちらかと言えば安全とは思わない」「５ 安全とは思わない」と回答した理由

		県内	首都圏	差
5	食品の安全性について、普段あまり関心がないから	**33.8%**	11.7%	22.1 ポイント

→県内のほうが「関心がない」を挙げた割合が高い。

		県内	首都圏	差
6	新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから	38.2%	**57.4%**	19.2 ポイント

→首都圏のほうが「新潟県産食品のことをよく知らない」を挙げた割合が高い。

(4) 首都圏住民は、県民に比べて日常生活で新潟県産食品の情報に触れる機会が少ない中で、比較的はっきりと「安全だと思う」と回答している人の割合が多い。

【根拠データ】

・問１で「１ 安全だと思う」と回答した人と「２ どちらかと言えば安全だと思う」と回答した人の割合

		１安全だと思う		２どちらかと言えば安全だと思う	
		県内	首都圏	県内	首都圏
全体		37.6%	**49.4%**	**47.6%**	35.0%
男女	男性	44.4%	**54.9%**	**39.1%**	29.3%
	女性	30.6%	**40.1%**	**60.1%**	40.8%
年代	20 代	51.4%	**54.3%**	**40.5%**	29.3%
	30 代	32.0%	**50.5%**	**51.5%**	32.4%
	40 代	36.9%	**42.7%**	**45.9%**	36.6%
	50 代	38.3%	**40.4%**	**51.4%**	37.4%
	60 代	34.1%	**51.4%**	**54.1%**	38.3%

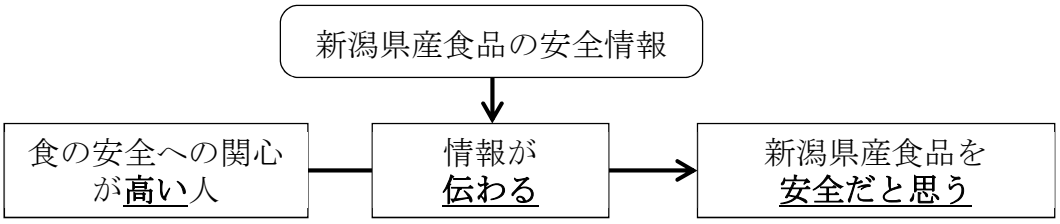
→首都圏のほうが「１ 安全だと思う」と回答した割合が高く、県内のほうが「２ どちらかと言えば安全だと思う」と回答した割合が高い。

（平成 29 年度～令和２年度のアンケート調査でも同様の傾向あり。）

２　上記傾向を踏まえた情報発信の今後の方向性

新潟県産食品の安全性に関する意識は、「**食の安全への関心度**」と「**新潟県産食品の安全情報に触れる機会**」に影響を受けると考えられ、これらの要素に着目して住民を３つの類型に分け、今後の情報発信の方向性を考察した。
（食の安全を脅かす大きな事件・事故がない平常時の想定）

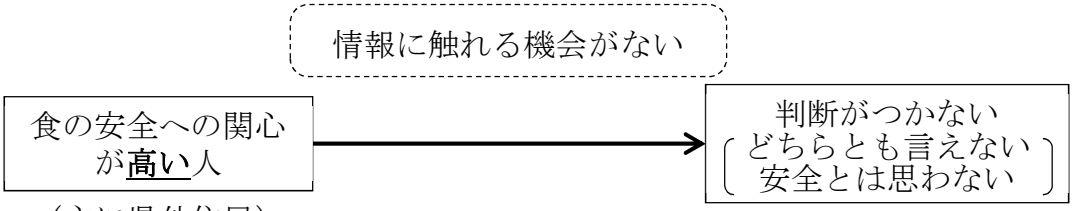
類型１（関心が高く、安全情報が伝わっている人）



【今後の情報発信の方向性】

これまでどおり情報発信を続けていく。

類型２（関心は高いが、安全情報が伝わっていない人）

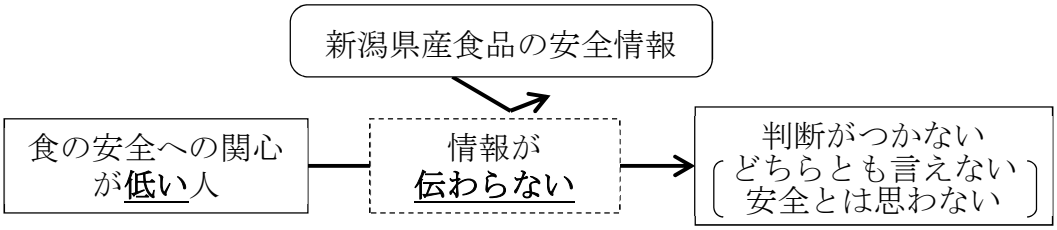


（主に県外住民）

【今後の情報発信の方向性】

少しでも情報が届けば安全だと思ってもらえることが期待されるが、発信手段が限られる県外に向けて、どうやって情報を届けるかが課題となる。
（インターネットの活用等を検討）

類型３（関心が低く、安全情報が伝わりにくい人）



【今後の情報発信の方向性】

関心が高まれば情報が伝わりやすくなるかもしれないが、関心の程度は人それぞれ。